

[難解 小林秀雄には 恒存の関係論が最適]

《小林秀雄評論 『読者のために』及び『批評』(感想VI)から》

《小林評論の本質: 批評の方法》: [小林『批評の方法』とカント『批判哲学』との相似性]

小林①【文藝・美術・音楽の藝術性[『在るがままの作品の姿』(物:場 C')]及び『人間(西行・徂徠等)の現に生きてゐる個性的な印』(物:場 C')】:カント①【『対象のあるがままの性質(物:場 C')』】⇒からの関係:小林①との【②『直接的取引的発言(D1の至大化)』即ち①に『批評(D1)の具体的な動機[②対象への愛・信(D1の至大化)]を捜し求め(D1の至大化)これを明瞭化(D1の至大化)』・カント①を【②正しく評価(D1の至大化)・積極的に肯定(D1の至大化)・違ふ特質(物:場 C')を明瞭化(D1の至大化)』⇒②②の対立的概念:小林『③自他の主張(F)』・カント③『獨斷的・懷疑的態度(F)』⇒③③との距離把握:小林③を『極度に抑制・斷念』(Eの至大化)・カント③を『捨てる』(Eの至大化)⇒小林(批評)・カント(批判哲学)(△粹):①①への適應正常(D1の至大化)。

(物:場 C')...小林①【文藝・美術・音楽の藝術性[『在るがままの作品の姿』(物:場 C')]及び『人間(西行・徂徠等)の現に生きてゐる個性的な印』(物:場 C')】。

(物:場 C')...カント①【『対象のあるがままの性質(物:場 C')』】。

D1:(物:場 C')からの関係「D1の至大化」...小林①との【②『直接的取引的発言』即ち①に『批評(D1)の具体的な動機[②対象への愛・信(D1の至大化)]を捜し求め(D1の至大化)これを明瞭化(D1の至大化)』】。

D1:(物:場 C')からの関係「D1の至大化」...カント①を【②正しく評価(D1の至大化)・積極的に肯定(D1の至大化)・違ふ特質(物:場 C')を明瞭化(D1の至大化)』。

E: [F(言葉・概念)との付き合ひ方・用法・「So called」(Eの至大化)]
「③③との距離把握」(Eの至大化)...小林③を『極度に抑制・斷念』(Eの至大化)・カント③を『捨てる』(Eの至大化)。

[福田恒存の関係論]
*「①場(場面)⇒からの関係
②⇒③言葉・概念(关系的概念)⇒③の用法(Eの至大化)で③と自分(△粹)との距離把握の成立(Eの至大化)⇒①への適應正常(D1の至大化)」。

F(③言葉・概念):
②②の對立的概念(F)...小林『③自他の主張』・カント③『獨斷的・懷疑的態度』。

(△粹)...小林(批評)・カント(批判哲学):①①への適應正常(D1の至大化)。

